

平成 8 年度事業概要

次長 松井 和喜

平成 8 年度の試験研究関係の事業について概要を記述します。

| 事業名 | 事業内容 |
|-------------------|---|
| バイオテクノロジー導入優良品種育種 | <p>本県の特産品目について効率的に独自品種を育成するため、従来の育種法に加えてDNA利用等の先端技術開発を行うと共に在来品種の産地化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主要品目の育種手法及び優良種苗の増殖技術開発 <ol style="list-style-type: none"> (1) イチゴ無病苗の増殖配布 (2) スイートピーの培養条件の解明 2 DNA利用等先端技術開発 <ol style="list-style-type: none"> (1) PCR法による雑種の識別、品種分類 3 在来品種の選抜と産地化 <ol style="list-style-type: none"> (1) マーガレット、一寸ソラマメ、ワサビの在来系統の特性調査 (2) 組織培養等による無病化、増殖条件の解明 |
| 産官共同バイテク育種 | <p>産地の充実強化を図るため、本県の特産品目について独自品種の育成が求められている。そのため民間企業との共同研究で今までに開発したバイテク育種手法を駆使し、特産品目の育種を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 一次選抜及び有望選抜系統の配布 <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織培養による有望選抜系統の増殖、配布（スターチス） (2) 子房培養による世代促進と個体選抜（エンドウ） (3) 高接ぎ樹及び苗木による個体選抜（カキ、カンキツ） 2 優良選抜系統の特性検定と評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 出願出統の特性調査と評価（カスミソウ、スイートピー） (2) 有望選抜系統の特性検定と評価（キク、エンドウ） |
| トルコギキョウの新産化技術開発 | <p>トルコギキョウの秋定植による同一株2回収穫技術の確立により長期出荷作型を安定化させ産地の拡大を図るため。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 日長、温度及び採花株のロゼット性による分類 2 2番花の開花促進 3 養水分管理技術 4 低温処理温度 5 育苗技術の改善 6 中山間地向けの作付け時期の検討 |
| エンドウ育成系統生産力検定 | <p>当所ではこれまでにエンドウの新品種「紀州さや1号」を育成し、さらに実エンドウ等の育種を進めている。これら新たに育成された品種の特性を十分に活かす栽培法を確立し、エンドウ生産の安定化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 有望系統の特性調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 種子の登熟温度と開花、収穫時期の関係解明 (2) は種期、摘心と開花、生育特性の解明（露地栽培及びハウス栽培） 2 有望系統の生産力調査 <ol style="list-style-type: none"> (1) 栽植密度、連作と生産力の関係解明 (2) 収穫時期と品質の関係解明 |
| 出願品種栽培試験 | <p>種苗法に基づく登録品種を審査するため、出願品種の生態及び品種としての特徴の調査を行う。</p> <p>カスミソウ 2 品種、スイートピー 1 品種の特性調査</p> |

| 事業名 | 事業内容 |
|------------------------------------|---|
| ウメ新産地化技術開発 | <p>ウメ栽培は年次による豊凶の差が大きいことと収穫時の労働不足が問題となっている。そこで、地域に応じた着果安定技術と収穫作業の省力化技術の開発を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 着果程度と花芽形成 2 花粉量の多い他果樹（アンズ）花粉の効率的利用 3 樹形改造と振動収穫機 4 全体のとりまとめと報告書作成 |
| ウメ生育不良緊急技術対策 | <p>最近ウメの生産地において生育障害が発生して、問題となっている。特に平成6、7年度は大干ばつの影響もあって、被害地域が増加している。そこで栽培面から、原因究明と発生防止技術の確立を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 土性と乾燥、PH、アルミナ等と根の伸長 2 剪定、施肥改善による樹勢強化 3 根群増加資材と樹勢回復 4 改植幼木管理 5 早期判定法 |
| 黒潮フラワーエリア産地化推進 | <p>消費の多様化、関西国際空港関連需要等、花きをめぐる新しい環境に即した黒潮フラワーエリア構想の中で、基幹品目である、バラ、カーネーションを中心に周年供給基地となる生産技術を確立する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 バラの品種別の生育開花生態の調査 2 バラロックウール栽培における増収技術 3 新花き（デルフィニウム、チドリソウ、他）の栽培技術 4 主要切り花の育苗技術 |
| 自生植物の園芸化及び産品化技術の開発 | <p>近年の多様化する消費ニーズに対応するため、自然環境との調和を図りつつササユリ等自生植物の増殖と園芸化及び山採り等による切り花や鉢物などへの利用技術を開発する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 自生植物の繁殖条件の解明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 自生地 of 土壌・気象環境の解明 (2) 繁殖条件の解明 2 新産品の開発 <ol style="list-style-type: none"> (1) 組織培養による繁殖方式の開発 (2) 切り花産品の開発 (3) 鉢・苗産品の開発 |
| 培養苗の高付加価値生産技術の体系化 | <p>培養苗生産を現地に密着し汎用性のある技術にするため、培養苗の開花生態を解明し、付加価値の高い種苗生産の体系化を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 培養苗の開花生態の解明 <ol style="list-style-type: none"> (1) 低温処理、冷房処理による開花促進効果の品種別分類（スターチス等） 2 有用形質の早期識別法 <ol style="list-style-type: none"> (1) 無病性の診断 (2) 花芽分化苗の識別 |
| スターチス及びカンキツの遺伝子診断による抵抗性等の早期選抜技術の開発 | <p>スターチスの萎凋細菌病抵抗性および低温要求性、カンキツの無核性に関与する遺伝子を探索し、それらの特性について遺伝子診断による早期選抜技術を開発する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 培養変異の誘発と特性把握 2 サブトラクション法等による関与遺伝子の探索 3 ジベレリン生合成経路の解明による関与遺伝子の探索 4 関与遺伝子の同定と抵抗性等の遺伝子診断技術の開発 |